

## 第9回 多摩市自治推進委員会 要点記録

日 時：令和3年4月15日(木)18:00~20:00

場 所：多摩市役所3階 特別会議室

出席委員：大杉覚委員、小川大介委員、寺田美恵子委員、林久美子委員、古瀬郁子委員、大澤俊哉委員

オブザーバー：合同会社 MichiLab 高野義裕代表

事務局：浦野副市長、田島市民自治推進担当部長、松崎福祉総務課長、原島健幸まちづくり推進室長、  
鈴木福祉総務担当主査、秋葉企画調整担当主査、西村企画調整担当主査、雨宮

傍聴者：1名

議事次第：配付資料「第9回 多摩市自治推進委員会 議事次第」のとおり

### 1 開会

委員長 第9回第七期多摩市自治推進委員会を開催する。

まず、事務局から資料の確認をお願いしたい。

事務局より、配布資料の確認を行った

委員長 次に、第8回委員会の要点録の原案について、修正はないか。

修正はないようなので、これで確定とする。

### 2 報告

委員長 次に「報告」に移る。エリアでの動きや市議会・庁内での議論について事務局から報告をお願いしたい。

事務局 参考資料1について説明する。緊急事態宣言の延長の影響により、3月14日以降にモデルエリアでの取組みを再開した。モデルエリアでの現時点の状況を報告したい。

事務局より、参考資料1に基づき報告

委員長 今の内容について意見等はあるか。

副委員長 3/14 のわがまち学習講座と 3/28 の諏訪中学区でフィールドワーク及びワークショップに参加した。わがまち学習講座では、あまり大きな市ではないのでエリアごとの各グループで地域性の違いはあまり出ないと予想していた。しかし、実際やってみると、グループごとに、小学校がなくなる可能性や、防災、みどりの保全等、地域の課題に応じた住民の関心事項が明確になった。元々地域委員会の必要性に疑問を感じることもあったが、その必要性を感じた。地域の人の力により地域カルテをつくる可能性を感じ、「(仮称)地域委員会構想」の将来像を垣間見た気がした。ただ、わがまち学習講座では作成する時間が短かったので、しっかり時間をとって取り組めば、地域カルテが具体的になると思う。

オブザーバー 諏訪中学区での地域版若者会議に多摩市若者会議のメンバーとともに運営で関わった。フィールドワークは地元の方にガイドしてもらい、中学生の参加もあった。若い参加者から、もっと聞きたいという意見もあった。今までこのように地域の歴史を知る機会がなかったので、手ごたえを感じた。その後ワークショップを開催したが、エリアを歩いた後だったこともあり多くの意見が出た。課題としては、3/31 期限で諏訪中学区を対象に行ったアンケート調査の回答者数 292 名に比べ、馬引沢・諏訪地区に住んでいる人の参加率が低かったことであ

る。今後繰り返し行うなかで、エリアに住む方により多く参加してもらいたい。今後の展望としては、今回ワークショップで多くのアイデアが出たなかで、地域の方と一緒にやっつけていけるものがあるので、それらを実際に実践していきたい。

委員長 自分はわがまち学習講座で講師を務め、諏訪中学区でフィールドワーク及びワークショップにも参加した。顔の見える取り組みを行い、地域での多様さや、エリアの規模感がみえてきた。

「(仮称)地域委員会構想」の実現に向けた進め方の手ごたえを感じた。3/28の諏訪中学区でのワークショップに中学生が参加したのはとてもよいと思う。オブザーバーから課題として挙げられたが、地元の方が今後より多く参加してくれることに期待している。コロナ禍で制約があるなかで、工夫すればやりようがあるということを示してもらったと思う。

事務局 次に、参考資料2及び3についてについて、報告する。

事務局より、参考資料2に基づき報告

事務局より、参考資料3に基づき報告

委員長 「(仮称)地域委員会構想」の実現に関しては、各エリアの特色もそれぞれなので、どう実現するかもそれぞれ異なってくる。ここで議論する際に、「この点はどうなのか？」と疑問をもち議論を深めることが大事である。全国では色々な事例があり、進めようと思えば進めることができるが、すべての例がうまくいっているとは言い切れない。考える部分と行動する部分と連動させながら進めていくことになる。

参考資料2「(仮称)地域委員会構想の考え方」は、今後委員会としてまとめていく答申の骨子としてまとまってきたが、まだストーンと腑に落ちるようなものにはなっていない。

次の議題でもあるが、今年11月10日の第七期自治推進委員会の任期満了を見据えて、前提となるしくみの必要性や、コロナ禍を踏まえた状況に応じてさらに深掘りして議論すべき点、さらに追加して議論したほうがよい論点等、意見はあるか。

委員 議論や取り組みが目に見えたかたちにまとまってきてうれしく思う。市が全体的に進めるシティセールスの方向性と沿うものなのか確認したい。

副市長 シティセールスは、外向けに若い世代の流入促進は進めているが、内向けの市民自身のシックプライドの向上が重要である。昔から住んでいる人に多摩市に住み続けたいと思ってもらえるようにすることである。そのために、ブランディングという取り組みをしようとしている。たとえば、「母になるなら流山」というようなものである。多摩市はこういうまちだ、ということをあらわすわかりやすいイメージをつくり結びつけていくことを考えていく。

委員 流山市のブランディングがうまいと思った。その後の流山は、住民の流入が激しく学区の再編が大変になったという結果がある。シティセールスとのバランスが難しいが、進めていかなければならない。

委員長 流山市くらいになればうれしい悲鳴かもしれない。いずれにせよ内向きの主体性の確立を高めることが重要である。多摩市では、シティセールスや「(仮称)地域委員会構想」の実現に向けて取り組んでおり、内向きの主体性という部分に関しては、明確になっていると思う。それをさらに明確にしていくことが課題だと思う。

参考資料2は今までの議論がまとまっているが、少し細かい。パッと見てわかりやすいものであるとよい。

副委員長 地域担当職員の設置について、市民である職員が3割と少なく、また元々多摩市出身でない人も多い。市内在住だと選挙事務や災害対応等があり、職員の意識が「地域に関わるのが面倒である」というものなら、うまくいかないと思う。地域担当職員制度を導入するにあた

り、職員の意識変革に向けたアプローチとして、地域に関わってよかったというポジティブなことを職員のなかで伝えてほしい。

また、自分が市民活動をしていて市へ要望を行う際に、100%望むとおりの答えではなかったとしても、その職員が自分に寄り添ってくれたということ自体が、真摯な姿勢として市民には伝わるものである。市民活動を行う委員が市職員と関わる中で、市職員がどのように関わってくれると嬉しかったかを意見として聞き、市側がフィードバックとして確認することも有効だと思う。

委員 長 自分自身も似たような取組みを行ったことがある。愛知県高浜市で行った「部長トーク」というもので、何年間か若手職員向けに行った。部長3人に前に出てもらい、自分が部長となるまでに地域とどのように関わってきたかを話してもらったものである。それは、研修ではなく業後に任意で、お茶やお菓子などをもってワークショップのように行い、職員が80人参加した。これが非常に評判がよかった。

また、香川県高松市で地域担当職員向けに講習を行ったこともある。地域運営組織の会長をやっている市役所OB2人くらいに来てもらい、自分と3人でパネルディスカッションをやった。OBなので市役所の内部事情もわかっている。お互いわかりあっているが、実際そういう場を設定しないと、聞けない話であり、評判がよかった。若手職員も参加し、互いに理解が進み、良い循環が生まれる。外向けの取組みだけでなく、そのような機会を多摩市の庁内でも作っていただければと思う。

### 3 令和3年度検討スケジュール及びモデルエリアについて

委員 長 次に、「令和3年度検討スケジュール及びモデルエリアについて」に移る。

令和3年度に入ったので、今年度のスケジュール及び令和3年度新規モデルエリアの選定について議論したい。まずは事務局から資料説明をお願いしたい。

事務局 本来なら、同時に新規モデルエリアを2エリア選定し、一斉に始めたいが、次第2で参考資料1に基づき報告したとおり、緊急事態宣言の延長等の影響により令和2年度モデルエリアでの取組みが延期となっていることもあり、新規モデルエリアのうち1エリアは、東寺方小学区エリアでの第3回エリアミーティング及びエリアでの取組み報告会を行ったうえで選定したい。

#### 事務局より、資料32について説明

委員 長 事務局からの説明は終わりました。令和3年度から新規モデルエリアを2エリアを追加することであり、本日は1エリアを選定することである。その1エリアは事務局案がニュータウンエリアの青陵中学区ということである。この内容について、意見等はあるか。

委員 市民活動が活発なエリアでよいのではないか。

委員 長 このエリアは高齢化率が全体的にかなり高く、公共施設のあり方の検討という課題があるということである。それでは、特に委員から異論もないようなので、令和3年度新規モデルエリアのうち1つは、青陵中学区エリアに決定する。もう1エリアは、東寺方小学区での第3回エリアミーティング及びエリアでの取組みの報告会を5月中くらいに行う予定であるため、その内容を踏まえて事務局案を出してもらい、6月に行う次回の委員会で選定する。第七期自治推進委員会の答申に向けた検討スケジュールについても説明があった。第七期で議論してきた内容を答申で明確にし、第八期に向けどのような申し送りをするか明確にする必要がある。この検討スケジュールについて意見はないか。

- 委員 今の資料もわかりやすい。文章ばかりで読みにくくなり後に誰にも読まれないようにならないよう、図などを使ってわかりやすいものにしたいと思う。
- 委員長 デザイン性や、動画をつくること等もあればよいと思う。答申自体は文章になると思うが、実際にエリアで動いていくにあたり、市民にうまく伝わる点に重点を置くことも大事である。ぜひ委員の力を活かしてうまく伝わるよう工夫をしていきたい。
- 事務局 補足説明をする。こちらは、第八期の自治推進委員会で引き続き検討するものであるので、最終答申ではなく、中間答申という形になると思う。第七期でどこまで議論したか、また、第八期でどのようなことを検討するか、という構成で考えていきたい。中身や体裁については、わかりやすさを重視したものにしていきたい。先ほど委員から意見をもらったように、職員同士でも交流し、若手職員等と共有の取組みもしていきたい。
- 委員 答申書が、「(仮称)地域委員会構想」を説明しやすくするツールになるのか。周りの人に説明するときに難しいと思うことがある。キャッチフレーズや、その他何かわかりやすく伝えることのできる方法なども用い、それを見れば方向性が見えるものになればよい。図が多いのもわかりやすいと思うが、図がたくさんあるからといってわかりやすいとは限らない。
- 委員長 (仮称)地域委員会は、「クリップ」みたいなものだと思っている。地域には、大きな活動のまとまりもあり、自治会・町会など小さなまとまりもある。それらをクリップで一緒にとめるようなイメージである。それだと一言で済む。ただ、わかりやすければそれでよいというものではない。そのクリップがどのような性能で、どのような大きさ、強度で、めざすかたちがどのようなものか、それら色々な要素が地域により異なる。それらをこの第七期自治推進委員会でどこまで検討し、第八期ではどの部分を検討していくかということだと思う。本日は重要な話が多くでた。全体を通して意見等はあるか。
- 委員 今までの検討内容を参考資料2にまとめてもらったのでわかりやすい。ただ、これを市民がみたときにまだわかりにくい部分が多いと思うので、まだ検討する余地があると思う。今回のモデルエリアの1つである諏訪エリアは、出戻りの方も含め若い方も増えた地区だが、既存の方とのつながりが弱い地区であると思う。若い人たちが住み続けていくための橋渡しに何が必要か考えたい。
- エリアミーティングの資料等を読んだが、参加者からよい意見が多く出ており、そういう意見を生かして改善していけると思う。地域の人自身で考える場も大事である。色々な意見を生かした取組みを地域で行っていくことが大事であるが、わがまち学習講座で出た「お祭り」、「おはやし」などすでに実施されているものもある。地域で行われていることでも、住民に十分に周知されていない部分や浸透していないことがあるのだと思う。地域の中でも温度差がある。お祭りなどで、人手不足を解消するために別の地域の人に参加してもらうところもあるが、それにより逆に地域の人に参加しづらいという声を聴くこともある。地域としてどうありたいのか、をすり合わせしていく必要があると思う。多摩市全体というよりは、エリアごとでの課題解決というところに視点を向けた方がよい。
- 「(仮称)地域委員会構想」では「支える」が特に大事という話があった。高齢化率にも言及されたが、子育て世代も子育ての悩みや、高齢者を介護する人の不安もあると思う。「支える」の対象は高齢者だけでなく多岐にわたると思う。逆に、「自分はこういうことを支えられる」という住民の声を集約したほうがよい。地域カルテをそのようなことに使っていければよい。
- あと3回ではあるが、よりよい形で次につなげていければよいと思う。

委員長 どれも重要な視点である。例としてお祭りについて挙げられたが、地域の人が入りにくくなる、地域のお祭りの実施方法として問題があると思う。地域にとって大事な行事であるお祭りの存続と天秤にかけようなかたちになっているかもしれない。「(仮称)地域委員会構想」ができたときに、そのような具体的な地域の課題の解決につなげることができるのか、という視点でも考えていかなければならない。わがまち学習講座で出た各エリアでの課題について、そのような見通しを立てられるとよい。多摩市は、小さな拠点となる活動や場が多くあるが、コロナ禍であっても、それらのつながりが切れないようにしていけるか。そういう役割も(仮称)地域委員会である。それらの実効性を高めることが役割である。具体的に、どういうことを見えるようにしたいか、関心事項を意見として出していければよい。いろんな人の多様な「自分ごと」が大事である。

委員 自分の住む場所での活動から考えて意見したい。住む地域を良くするためには、色々な人と関わっていかなければならないと思っており、話し合いの場が必要なのだと思う。話し合いの場では、それぞれの人にとって、文字の大きさや図など工夫し、資料を見やすいようにすること等色々な配慮が求められる。資料に関しては、わかりやくうまくつくるのは難しいが、新聞の見出しのような目につく部分と細かく見たくなるヒントがあれば助かる。話し合いの行い方についても、伝え方やまとめかたなどのヒントやガイドがあれば助かる。その結果、できるだけ多くの人に参加したくなる場をつくれるかがポイントではないか。

委員長 現在コロナ禍ではあるが、モデルエリア2か所でそれぞれ取り組んでいる。エリアごとに違いがあり、また、共通している部分もある。それらを比較したりつなげたり互いにフィードバックしたり、他のエリアへの横展開の可能性について話し合えたりしたらよい。

委員 わがまち学習講座のグラフィックレコーディングはわかりやすいし、ライブ感があり、この場がこんな雰囲気だったと伝わってくるし、気持ちがなごむ。最初は、こういうとつきやすいところから入り、その後踏み込んだ内容にしていくのもよいと思う。今日話が出た、職員間でわかりあうということはとてもよい取り組みだと思う。失敗から学ぶこともあると思うが、成功体験は明るく楽しいものなので、そういうことを題材にして話し合うのはよい。市民の側もそういうことをやりたいと思う。(仮称)地域委員会というと、福祉関係が重要視されがちだと思う。福祉分野は「支援する人」「支援される人」が固定化され、一方通行になりやすい。高齢者の中にはそれをよしとせず、いつも助けてもらうことを負担に思う人もいる。高齢者だけでなく障がいを持つ方なども、あからさまに支援されるのではなく、「お互い様」で負担にならないような関係性をつくることができたら良いと思う。例えば、高齢者は、支援を受けることもありつつ、子育て世代の子どもの面倒を見るとか、朝早く出勤する現役世代の子どもの送り迎えをする等、市民のなかで支え合えるしくみがあればよい。

委員長 「お互い様」というあり方が重要だと思う。

委員 これまでは縦割りだったが、分野を超えてクリップのように挟むことで、互いにつながり支え合える関係になるとよい。

委員 多摩市は高齢者に向けて自分たちのできることをやってみようと呼ぶ場・機会が多い。介護予防リーダー養成講座など。そういう機会や制度を知るほど、自分は今後も活躍できると思える。自分も周りの人に、介護予防リーダー養成講座の受講をすすめているが、声かけがなかなか難しいと思う。

委員長 そうやって周りの人に声をかけて広めてもらうことが大事で、そういう人が増えるといい。

委員 参考資料2のプラットフォームに欠けている点として、学校を入れたほうがよいのではない

か。読売新聞に掲載された自分が運営するNPO法人の記事を読み、近くの学校の先生が訪問してきた。コミュニティスクールを市として広げているが、学校の運営だけでなく、総合学習の授業で地域をテーマにし、子どもたちを地域に出したいということだった。子どもたちがやれることは多くはないが、地域で子どもたちの姿を見られるのは大人にとり喜びでもあるので、ぜひ地域での活動主体にもなってほしい。地域はそういう小さな積み重ねでできている。

委員長 たしかに、モデルエリアを学校区ごとにやっているのもプラットフォームに学校も入れたほうがよい。コミュニティスクールの運用は地域により異なるが、子どもたちが地域に出て活動して地域の人が学校に入り活動を支える、本当の意味でのコミュニティスクールをめざしてもらいたい。諏訪中学区でのエリア版若者会議には、近くの学校の中学生が参加していた。そういう参加を広げていけるような取組みになればよい。

副委員長 先ほどシティセールスについて質問が出たが、行政でシティプロモーションというときに、まちの売りのアピールだけでなく、市民が自分のまちに愛着をもち、まちのために何か活動しようという動きにつながることをシティプロモーションと言われる。流山市では、プロボノの活動が盛んで、やりたいことを実践して地域に関わっていくしくみがある。最近、多摩市若者会議で、子育て世代の人が地域で過ごす時間が増えてきて、自分たちが地域で何かできないかと言われることが増えてきている。市でそういうしくみがないので、多摩市若者会議にそういう話が来ているのかもしれない。自分の住むまちに対して、自分たちが何かできることを示してそれを行うことで役立つことができる場を提供できるのが、「(仮称) 地域委員会構想」でめざす姿なのだと思う。

委員長 自己実現の着地点を、「(仮称) 地域委員会構想」で用意するということだろう。

オブザーバー 馬引沢・諏訪地域福祉推進委員会に出席して想像と逆だったのだが、今回の取組みを快く受け入れてくれたことである。コロナ禍で思うように進められない状況であるが、逆に水面下で色々な関係性を深められた面もあり、令和3年度は面白い取組みになると思う。今回選ばれた新規モデルエリアの青陵中学区は、多摩ニュータウンの特性がわかりやすく出ているエリアである。住みやすい地域であり住民が固定化しているため高齢化が進行している。また、ニュータウンの新規住民が多く、住宅管理組合等の間で横のつながりが少ない。馬引沢・諏訪エリアとは対照的だが、各エリアの取組みを相互にフィードバックできるようにやっていきたい。

#### 4 その他

委員長 では、次第6「その他」だが、何かあるか。

事務局 今回は、委員から繰り返し「わかりやすい資料」という発言が出た。その点に留意して、次回報告書の骨子を提示していきたい。いま検討しているしくみを入れた場合と入れなかった場合にどういう差が想定されるかみえるかたちにして、提示したい。

次回の第10回自治推進委員会は、令和3年6月17日(木)に開催する。勉強会を開催するかどうか、開始時間など、情勢により後日決定する。勉強会のテーマのほか、開催方法について提案があれば、事務局まで連絡してほしい。

#### 5 閉会

委員長 それでは、第9回の多摩市自治推進委員会をこれで閉会する。